

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	田淵 陽平	学校名	北九州市立ひびきの小学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間・社会科・道徳	対象学年（人数）	6年3組（38名） 第6学年1組～5組（191名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年11月～12月（10時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：地球規模の課題の解決と国際協力						
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間 社会科		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		Bグローバル社会	相互依存	情報化		
		C地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ・世界の課題を解決するためには、国際的な協力が必要であることや、日本の政府や人々がどのような活動をしているかを知り、国際社会の一員として持続可能な社会を創るためにどのように取り組んだらよいか、自分なりの考えをもつ						
5. 単元の 評価規準		①知識及び技能	・世界の人々の健康や生命をまもったり、暮らしを向上させたりするために、日本が国際的な協力をしていることを知る。			
		②思考力、判断力、表現力等	・学習したことをもとにSDG sの視点をもって、国際社会の一員として、自分がこれからどのような行動をしていくべきか、選択・判断し、表現している。			
		③学びに向かう力	・国際社会の一員としての役割について学んだことや考えたことを、これからの社会に生かそうとしている。			
6. 単元設定 の理由・単元 の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 6年生の最後の単元であり、これまで学んできた各教科の考え方を生かし、ある国の課題に対して協力隊として派遣されたらどのような活動をするか考える。小学生なりに自分の考えや思いをもち、友達と対話しながら問いに対する最適解を考える中で、多角的に考えることや持続可能という視点で考えることができ、社会に参画する態度を獲得できると考える。				
		【児童／生徒観】 1学期に国語科「私にできること」の単元や外部講師によるSDG sの話を聞いている児童なので、SDG sの概略は理解している。また、本校では外国語活動の研究をしておりALTとの交流も活発で異文化に触れたり、学習したりすることを楽しむなど興味・関心は高い。一方、海外についての理解は進んでいるが、ジブンゴトとしてとらえている児童は少なく、具体的にどのような活動をしていけばよいかよく分からないというのが現状である。よってこの単元の学習を通して、世界の課題をジブンゴトとして捉え、今後どのように行動するのがよいか自分にできることを考えるよい機会になると考える。				
		【教材観/指導観】 小学校で学んできたことを生かしてこれからの生き方を考える単元となっている。1時間1時間を丁寧に学習していくことで、海外の人と同じ目線に立ち自立していけるような日本の支援のあり方を学び、持続可能な社会をつくるために大切なことを学べる教材となっている。				

7. 単元計画（全 10 時間）			
※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。			
時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	世界の現状や課題、多様性に気付く。 （総合的な学習の時間）	世界100人の村のワークショップ	世界100人の村
2 本時	世界の課題を解決するために活躍する日本人に着目して、日本の人々がどのように取り組んでいるかについて学習問題を立てる。 （社会科）	- 医師の中村哲さんや日本人が世界の課題解決に行ってきた活動について調べる。 - 学習問題をつくる	- 教科書の資料や写真 - どうなってるの世界と日本
3	- 教育を受けられない背景には、貧困の問題があることに気づかせる。 - それらの課題を解決するためには、国際的な協力や外部の協力が大切であることを理解する。 （総合的な学習の時間）	貧困の輪のワークショップ	「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集
4	個人や民間による国際協力について知る。 （社会科）	医師である中村哲さんを支援するペシャワール会の活動を調べる。	- 中村哲さんビデオ - 教科書の資料や写真
5	国際連合のはたらきや、その中で日本が果たしている役割をとらえる。 （社会科）	- ユニセフの活動を中心に国際連合について調べる。 - 国際連合において日本が果たしている役割について調べる。	どうなってるの世界と日本
6	地球環境をめぐるさまざまな問題や世界の課題の解決に向けての国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性をとらえる。 （社会科）	- 世界の環境問題を解決するための取り組みを調べる。 - 北九州市の環境問題への取り組みを調べる。	「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集
7	すべての人権が尊重され、だれもが安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、国際社会の一員として協力することの大切さをとらえる。 （社会科）	日本が世界の国々に行っている支援や東日本大震災の時に受けた支援を調べる。	教科書の資料や写真
8	JICA や青年海外協力隊について JICA の推進員に体験談を話してもらい、国による国際協力について知る。 （総合的な学習の時間）	- 青年海外協力隊経験者から体験談をきく。 - 日本の持続可能な支援の仕方について話を聴く。	JICA 国際協力出前講座
9	これまで学んできたことをもとに、わたしたちが世界の人々とともに生きていく上で実行したいことを考える。 （社会科）	- これまで学んできたことをふり返る。 - 世界の課題に対して、自分が実行したいことを理由とともにノートに書く。	- SDGs ロゴマーク - 教科書の資料や写真

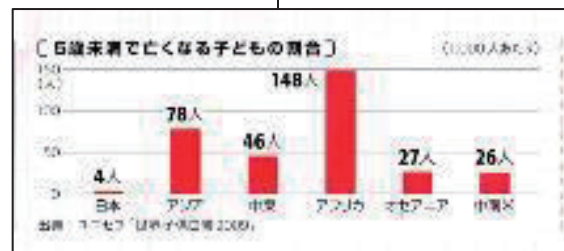
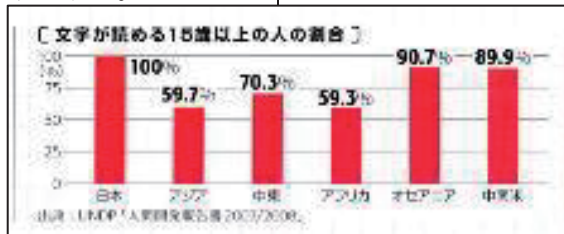
10	・世界の人々とともに生きていくうえで、実行したいことを発表しよう。 (社会科)	・それぞれの考えを発表する。	
----	--	----------------	--

8. 本時の展開 (概略)

本時のねらい：世界で活躍する日本人の活動に着目して、世界の課題を解決するために、日本の人々がどのように取り組んでいるかについての学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	1. 前時を振り返り、めあてを確認する。 T: 世界には、どんな問題がありますか。新聞やテレビで見たり聞いたりしたことはありますか。 C: 紛争があります。 C: 難民がいます。 C: 温暖化の問題があります。 C: 貧困で病院にいけない国があります。 C: お金がなくて、学校に行けず働いている子どももいます。 T: 文字が読める15歳以上の人の割合や5歳までに亡くなる子どもの割合についてデータを示す。	前時までの学習の足あとを掲示 ・日本と海外とのデータを示し、比較することで実感できるようにする。	教科書：『小学社会 6』 教育出版 「どうなってるの世界と日本」
展開 (30分)	T: これらの課題について、日本の人々はどのような活動をしているのか学習していきましょう。 日本の人々は、世界でどのような役割を果たしているのだろう。 2. 世界で活躍する日本人の活動を調べる。① T: 写真や教科書から中村哲さんがどのような活動をしているのか調べましょう。 C: 難民の人に診療を行っています。 C: 病院がないから外で診療しているかな。	・机間指導し、教科書や写真から活動が読み取れるように支援する。 ・医療活動だけでなく、井戸を掘ったり用水路をつくったりしていることに気付くよう問い返しをする。	ビデオ視聴 3分 教科書 P257 写真ウ、エ、オ、カ 



まとめ (10分)	C: 1984年からパキスタンやアフガニスタンで戦乱によって難民となった人たちの診療を行っています。 C: ペシャワール会という NGO が中村さんの支援を行っています。 C: 医療活動だけでなく井戸を掘ったり、地下用水路を修復したりして、農業用水を確保できるようにしています。 C: 用水路をつくると、9年後の2012年には緑が増えて農業ができるようになっていました。 3. 世界で活躍する日本人の活動を調べる。② T: 世界で起こっている問題に対して、日本人はどのような活動をしていますか。写真を見て考えましょう。 C: 自然災害が起こった時、協力して救助や医療活動を行っている。 C: 現地の人と共に医療活動を行っています。 C: 地雷の処理をしています。 T: 日本や日本の人々はどんな活動をしていますか、まとめましょう。 日本の人々は政府や NGO などいろいろな立場で、世界の平和や環境を守るために活動をしている。 ○学習問題を立てる。 T: この単元で調べていきたいことは何ですか。 C: 世界の平和や地球環境等の問題と日本はどのようにつながっているのだろう。	  2003年  2012年  ・ペアで話し合い 教科書 P258-9 写真オ、カ、キ   
----------------------	---	---

	C:問題を解決していくために、日本や世界は、どのようなことに取り組んでいるのか調べていきたいです。 C:問題を解決するために、何を大切にしているのか知りたいです。 T:これらを調べていくための学習問題を立てます。	・児童から出る調べていきたいことを、単元を貫く学習問題としてまとめる。	
	学習問題 世界の平和や環境を守る取り組みに、日本の人々はどのように関わっているのか調べよう。		
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 学習問題について予想を立て主体的に追求しようとしている。【態度】（発表・ノート記述）			
10. 学習方法および外部との連携 学習方法 ・学習の中でペアやグループでの話し合い活動を多く取り入れることをとおして、児童同士の対話を増やし、考えを広げたり深めたりできるようにする。 外部連携 ・9月に北九州学校応援団の外部講師による「カードゲームで知る SDGs」を実施する。 ・JICA 出前講座で青年海外協力隊員による国際理解教育の授業を実施する。			
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・単元を通してすべての授業を校内で公開する。事前に時間割を周知する。 ・単元を通して学習したことを模造紙に書き、校内に掲示することにより、他学年の児童や保護者に知ってもらう。			

【自己評価】

12. 苦労した点	○ 単元の終末で、「これまで学んできたことをもとに、世界の人々とともに生きていくうえで、実行したいこと」を考える際に、具体的な活動が思い浮かばない児童がいた。「電気を消す」、「募金をする」などの活動は思い浮かぶが、その他の活動と SDGs の目標につながる具体的な活動を考えるのが難しかった。また、児童が考えた活動について、持続可能な視点や必要性の視点などから児童同士で検討できるような活動ができれば、さらに考えが深められると感じた。 ○ 授業の中で、対話を通して考えを広げたり、深めたりしたかったが、コロナ対応によって制限せざるをえず、話し合いが活発にできないこともあった。
------------------	--

13. 改善点	○ 単元の終末で、「世界の人々とともに生きていくうえで、実行したいこと」について児童が具体的な活動を考えられるように、参考図書や参考 URL を提示し、児童が調べ選択できるような支援をする。また、個々で一度考えた自分たちの活動について、他の児童から質問や意見をきき、よりよい活動を考える時間をつくるとよいと感じた。 ○ ICT を活用するなどして、直接的な対話ではなく、間接的にも可能な対話の方法を考えていく。
14. 成果が出た点	○ 「世界の現状や課題」や「ユニセフ」、「JICA」について、自主学習で調べてくる児童がたくさんおり、この単元への興味・関心の高さを感じた。また、市販のテストの平均点が 89 点→95 点に上がるなど、理解もよくできていた。 ○ 同学年の教諭 4 人も同じように取り組んだ。単元を通して、どの学級も児童の反応がよかったので、「今後も国際理解教育の教材を組み込んだ授業がしたい」とのことだった。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	○ 単元のまとめでは、SDG s の 17 の目標の中から、世界の人々とともに生きていくうえで、自分がこれから実行したいと思うことを選び、選んだ理由とともに発表した。事前に、選んだ目標とその理由が書かれた全児童の一覧表を配り、同じ意見や異なる意見だが興味のある友達と対話する時間を設けた。 【第 10 時の児童の意見を書いた板書】  目標 1:ユニクロの服を寄付する。 興味・関心をもつ。 目標 2:給食の残食をゼロにする。 寄付をする。 目標 3:ODA について知る。 目標 4:教育支援をし貧困から抜け出すようにする。 目標 5:差別をしない。男女平等を実現する。 目標 13:すずしい、あたたかい着方を工夫する。 目標 14:ペットボトルから水筒に変える。 目標 15:ゴミ拾いを呼びかける。 17 の目標の中から、具体的な活動を考えたり、自分たちにできる第一歩として「知る」ことや、「興味・関心をもつ」ことも大事だと考えたりすることができた。

○ 単元前、後の理解の深まりについて、振り返りシートより

学習前

世界の問題を解決するために日本の人々は世界と共にどんな取り組みをしているのだろう。政府や地域や個人の国々などが、世界の人たちと活動費用を集めて、協力して、SDGsなどの目標を達成するために、世界で、おきている戦争や紛争に対処したり、病気の人たちのちやうと受けたり、食料をくばったりしていると思う。

学習後

世界の問題を解決するために日本の人々は世界と共にどんな取り組みをしているのだろう。世界には、地球温暖化などの環境の問題だけでなく、戦争や紛争、おが、栄養不足、病気、教育を受けられないなどの多くの問題がある。これらを解決するために、日本の人々は、国際連合政府、個人など様々な立場から活動している。また、これらに必要なお金などは、国際連合は加盟国が、政府は政府が、個人などは募金などから得ている。これらの国々は、平和と社会の発展や子どもと権利、文化などを守る活動をしている。活動する現地に行き、現地の人に技術などを教えることで、ボランティアの人が帰ってもこまらない持続的な支援が行われている。

単元を通して、学習問題に対する理解が深まっている

○ 本単元のすべての学習を終え、全体を通した振り返りシートより

最初は、SDGsの1つくらいぬけても(目も)何もならないと思、ていたけど、この学習をとおして、SDGsの1つぬけたら、すべてが(世界が)成り立っていかないということに気づきました。今は地球が3個分必要といわれているけど、私達が大人になったときには、地球が半分でもたりる、世の中にしたいと思った。そのためには、世界と共に上の取り組みをしているなと思った。

SDGsの目標の中には、私たちにできることもあると分かりました。世界の問題を解決するためには、パートナーシップを大切にするのが大切だと思いました。

16. 授業者による自由記述	○ 本単元は、社会科の既存単元に国際理解教育の視点や教材を組み込んで単元を構成した。目的は、どんな教員も取り組みやすい汎用性の高い授業にしたいという事と、興味・関心を引き児童の理解を深めたいという事である。 汎用性に関して…本校で、私のクラスも含め5クラスで同じ単元計画で実施した。初めて6年生を担当する教員もいたが、単元を通して児童の反応がよく、無理なく学習を進めることができた。次回も同じような流れで単元を学習していきたいという意見であった。 理解度に関して…本単元は本来は6年生の最後の単元であるが、研修の実践のため計画を組み替えて実施した。既存の単元計画の中に、国際理解教育の教材を使用することで、学習内容に対して興味をもつことができ、高い学習意欲を維持することができた。その結果、世界の課題を「ジブンゴト」にして、自分ができることを考えることを通して理解を深めることができた。 その後、総合的な学習の時間「自分の未来をみつめて」の中で、数人の児童が、将来、「青年海外協力隊になりたい」や「世界の人々を助ける仕事につきたい」と書いていた。児童にとって進路の一つになるほど、本単元が児童にとって魅力的なものになったのではないかと考える。 また、今回、JICA 九州の職員や国際協力推進員の方々には、授業を参観いただいたり協力隊の経験談をお話いただいたりとお協力いただいた。北九州は、JICA 九州があるので、この研修をきっかけに連携しリソースを生かしていきたい。
-----------------------	---

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。